

# 薬史レター

日本薬史学会

J S H P



第 91 号

2023 年 9 月

## 日本薬史学会 2023 年会 (岡山) のご案内 (その 2)

年会長 土岐隆信 (マスカット薬局顧問)

3 年余りのコロナ禍も落ち着いてきましたので、今回は「“稽古照今” (古事記より) 吉備に集いて。古き過去を学び、今を考える。」をスローガンに掲げ、参加者の皆様が親しく集まれるような年会にしたいと準備計画中です。特に数年間中止されていた情報交換会 (懇親会) も計画していますので、ぜひご参加くださいますようお願いしています。一般講演のほか、特別講演 1 としまして「諸学問の源泉 津山の蘭学：宇田川家三代と箕作家一族を中心に」津山洋学資料館名誉館長下山純正氏、特別講演 2 として「大阪道修町における香料取扱いの歴史と塩野香料」塩野香料 (株) 代表取締役塩野秀作氏を企画しています。

### 【開催日時】

2023 年 10 月 28 日 (土) 開会 10:00 (受付開始 9:30)

### 【会場】

就実大学 E 館 (変更されました)

〒703-8516 岡山市中区西川原 1-6-1

(JR 山陽本線もしくは、赤穂線で岡山駅から 4 分、西川原駅で下車徒歩 1 分)

### 【年会事務局】

就実大学薬学部事務室 TEL: 086-271-8384

FAX: 086-271-8320

実行委員長 二宮清文 ninomiya@shujitsu.ac.jp

### 【懇親会 (情報交換会)】

講演終了後 18 時より、学内 V 館地下食堂において開催。参加費 5,000 円

### 【研究発表演題の募集】

応募されました方、ご協力ありがとうございました。

### 【薬剤師研修センターの単位】

単位申請中です。

### 【年会参加申し込み】

これから参加登録をされる方は、下記参加登録 URL より 2023 年 9 月 30 日 (土) までにお申し込みください。お振込みも同日までをお願いします。10 月 1 日 (日) 以降は“当日登録”扱いとさせていただきますのでご注意ください。

参加登録用 URL:

<https://forms.gle/bBmSQexvHxrZi5Kw5>

### 【振込先】

金融機関名: トマト銀行 原尾島支店

口座番号: 店番号 049 普通 2055972

口座名: 日本薬史学会 2023 年会

実行委員長 二宮清文

ニホンヤクシガツカイニセンニジュウサンネンカイ  
ジッコウイインチョウ ニノミヤキヨフミ

### 【参加費】

会員 (事前登録会費 4,000 円、当日登録会費 5,000 円)

非会員 (事前、当日とも登録会費 6,000 円)

学生、院生 (登録会費 無料、ただし社会人大学院生は除く)

お弁当代 1,000 円 (税込み) (お茶付き、岡山県産の食材をふんだんに使用したお弁当です)

### 【薬史ツアー】

参加費 10,000 円 (観覧料、昼食代込み)

集合時間: 10 月 29 日 (日) 8:30

集合場所: 岡山駅西口バスターミナル 27、28、29 番あたりに集合してください。

8：30出発 ①津山洋学資料館、箕作玄甫旧宅見学 ②つやま自然のふしぎ館見学 ③津山まなびの鉄道館見学

昼食は「津山城東とうふ茶屋 早瀬豆腐店」で食事。  
16：30 岡山駅西口バスターミナルに帰着予定。  
参加定員は30名、参加は事前の申し込み順とさせていただきます。

(両備バス、大型バス、最少催行人員20名)

なお、津山で途中下車され、高速バスで大阪に帰ることもできます。

以上、岡山での年會に多数のご参加をお待ちしています。

## 役員新任・退任挨拶

### 理事就任のご挨拶

土岐隆信

本年4月より理事を務めさせていただくことになりました岡山の土岐隆信と申します。このたび日本薬史学会2023年会(岡山)を10月28日(土)に就実大学において開催いたしますが、その年会長を務めさせていただきます。29日(日)には津山洋学資料館等見学の薬史ツアーも計画しています。微力ではございますが、先生方のご指導ご鞭撻を賜りまして開催したいと思っておりますので、ぜひご参加ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 広報委員長就任のご挨拶

日向昌司

本年4月より、広報委員長を拝命いたしました。森本先生からお声かけいただき、本学会のウェブサイトの管理を木村友香先生から引き継ぎ、2021年から担当させていただいております。

迅速かつ正確に情報を提供することはもとより、本学会の重要な情報提供ツールとして益々ご活用いただけるよう、先生方のご意見ご提案を賜りながら、充実させていきたいと考えております。引き続きご指導の程、お願い申し上げます。

### 評議員就任のご挨拶

村田清志

今年度から評議員を務めさせていただくことになりました村田清志と申します。

企業在籍時から、植物廃棄物などの未利用資源の有効活用に関わる仕事をしており、現在は奥羽大学薬学部で生薬・漢方医学を担当しています。古い文献を含む既知の書物にいろいろ参考になる題材があります。植物・アルカロイドの研究で、学生の中から船山信次先生にいろいろと勉強させていただきました。ご縁もあり、今後薬史学会に何かしらかのお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 六史学会報告

編集委員長 齋藤充生

コロナ禍になって初の六史学会合同12月例会は2022年12月17日(土)14～18時にオンライン(Zoom)で開催された。

日本歯科医史学会からは、血の穢れの思想もあり、中世日本の歯科医療には、医師、口中医(現在の歯科と咽喉科をカバー)、歯抜き師、仏師・大工(近世の入れ歯師の原型)が並立し、木床義歯(柘植が

多いが桜のもの)は顎粘膜吸着義歯として世界で初めて発明されたものとの紹介があった(欧米は19世紀までばね式で咀嚼できなかった)。

日本看護歴史学会からは、京都帝国大学福岡医科大学(現九州大学)で、大正元年、解剖学櫻井恒治郎教授のもと、博多人形師が解剖学教室で実習・講義等を受講し、櫻井教授の「美術解剖学ノ栞」でも

その成果が触れられていたことが紹介された。また、当時は陶製骨格標本（歯を含む頭蓋骨）も作られ写実的な博多人形に寄与したこと、九大解剖学教室にはまだ未整理の解剖図、陶骨などの資料があり調査予定であることが報告された。

洋学史学会からは洋学史研究事典の編纂について紹介され、研究篇（グローバル）と地域篇（ローカル）からなり、若手研究者に研究の方向性を示す目的であることが紹介された。付録の史料所在目録は若手部会が作成とのことで、若手、地域の活躍、当時の社会（場、空間）を取り上げる研究手法の紹介、分野史から全体史への展望も印象的であった。

日本医史学会からは1889年から90年にかけて世界的に流行した旧ロシアかぜ（お染風）の記録された症状（味覚・嗅覚障害、多臓器血栓・炎症）からコロナウイルスが原因だったとの論文が出たこと、一方で、血清考古学（以前採血された血清コレクション）、考古疫学（若年者、高齢者のインフルエンザの超過死亡）からはインフルエンザのH1, H2, H3のウイルス循環説も有力であることが紹介され、合わ

せて現在の COVID-19の超過死亡について参加者との討議がなされた。

日本薬史学会からの発表については、演者による寄稿（90号）があるので詳細は割愛するが、中国（中国薬典）と日本（日本薬局方）の半夏の修治の有無について紹介された。今回の発表は、中国人留学生がコロナ禍で来日できない間に行ったドライ系研究の英文誌発表がもとで、学位論文の根拠となったこと、別グループが数週間の差で同様の論文を出すなどホットなものであったことも興味深かった。

日本獣医史学会は50周年を迎え、因幡の白兔、獣医師は馬医と呼ばれていたことに始まり、平成23年の獣医学のコアカリキュラム改定で獣医学概論に獣医史学が項目として明記され、平成25年以降入学者には必須となっていることが紹介された。質疑では獣医師の職能の変遷や、インフルエンザ、コロナウイルスなどをはじめ、人の感染症のほとんどが動物に由来することから、ワンヘルスについての活発な討議が行われた。

## 『薬学史入門』の発行までの経緯

薬史学教科書作成実行委員長 小清水敏昌

今年2月18、19日に行われた第108回薬剤師国家試験に薬史学関連の問題が法規・制度・倫理の必須問題として、次のように出題されました。

問72 長井長義によって世界で初めて単離されたのはどれか。1つ選べ。

1. モルヒネ
2. エフェドリン
3. アトロピン
4. サリチル酸
5. コカイン

このような問題はいままでの国家試験には無く、画期的な出題でした。受験生はどの程度正答できたのでしょうか、ちょっと気になります。昨年11月に本学会編として発行された『薬学史入門』の16頁には、正にこの問題の解答にあたる「日本の薬学の父 長井長義」と題するコラム欄に記載しています。

そこで、『薬学史入門』の発行に至るまでについて少し記述します。

そもそも薬史学教科書の作成は学会として必要なこととは理解されていましたが、歴史なので幅広く纏めるのがなかなか大変と思われておりました。平

成28年に『薬学史事典』が本学会編で発刊されました。この編集会議で薬史学の教科書として編纂しても良いのではとの意見が出されましたが、教科書ではなく encyclopedia（百科事典）として幅広く収録することにしました。余談ですが、医史学会でも昨年7月に『医学史事典』を発刊しています。平成29年4月に薬史学会総会で当時の会長は、事業計画として薬史学分野の教科書を作成すると発表しました。そして翌年3月5日に最初の薬史学教科書作成委員会が開催されたのですが、何故かその後の会議はなかった。そこで、令和元年4月に会長が新たに選出されるに伴い、委員会名を薬史学教科書作成実行委員会と改称し委員長も新任され取り組むことになりました。

第1回の委員会を同年5月20日に実施し以後2～3月毎に開催し、取り上げる項目などを討議しました。同年10月には岐阜での年会において「薬史学教科書シンポジウム」が行われ私を含む3人のシンポジスト



がその考えを述べ、会場からは発行の希望が多く出され会員からの熱い要望があることが分かりました。その後、令和2年3月の第6回まで種々検討し、また必要時には常任理事会に進捗状況を報告しました。ところが、コロナ感染が拡大し国は令和2年4月16日に緊急事態宣言を全国に向けて発令したため、以降の委員会は開催できず電話やメールなどを用い出版社とも連絡をせざるを得なくなりました。多数の執筆者とその内容の確認作業も時間を要することになり、全体的に作業能率が悪くなりました。このことが本書の発刊が遅れた最大の原因になった次第です。

いずれにせよ、薬学の初学生を対象にした教科書とするため難しい文字にはルビを振り、正確を期すため何度も見直しを行いました。昨年10月には表紙のデザインを決定し、11月には対面式の仙台での年会において本書のパンフレットを配布することができました。冒頭で述べた薬剤師国家試験に初め

て薬史学関係が出題されたことは、薬学教育モデル・コア・カリキュラム(以下コアカリ)の影響があります。平成25年改訂のコアカリでは「薬剤師として求められる基本的な資質」に「薬学の歴史と未来」とした項目となり、薬学や薬物療法の歴史的な流れ、薬剤師の役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)、将来の薬剤師と薬学の果たす役割などが定められました。これらは『薬学史入門』に5つの章に渡り網羅されています。しかし、この項目は最新のコアカリ令和4年度改訂では無くなり、各領域の各テーマにおいて「歴史」を部分的に学修するようになりました。

このように出版まで約3年を要した本書ですが、活用して戴きその補足は『薬学史事典』になります。薬に興味のある一般の方々をも含み“薬学の歴史”の面白さを理解して戴きたい。改めて、25名の執筆者、3名の編集委員及び編集アドバイザー2名の方々に感謝いたします。

## 日本薬史学会での研究(学会発表や論文作成)で「研修単位」が取れます

理事 五位野政彦

薬剤師の卒後教育(生涯学習)の目安のひとつとして、薬剤師認定制度認証機構による研修認定制度を利用した単位取得、あるいは日本病院薬剤師会の認定制度があります。

「薬学史」は現行の薬学コアカリキュラムにも含まれており、第108回薬剤師国家試験(2023年2月)にも出題があるなど薬剤師に必要な知識です。生涯学習の一分野です。

ここでは認証機構が認めた団体の代表例として、日本薬剤師研修センターの認定制度において薬史学研究で単位を取得する方法の概要を紹介します。

### 1. 薬史学研究での単位取得

薬剤師研修センターの個人IDの取得(同センターウェブサイトから申請)が必要です。

対象となる研究は

- (1)「薬史学雑誌」掲載で「要旨」の記載がある総説、論文、研究ノート、資料
- (2)日本薬史学会年会、日本薬学会年会での発表があげられます。

### 2. 学会参加で単位を取得

薬剤師研修センターの個人ID取得時の「QRコー

ド」が必要です。

対象となる学会/学術大会の参加時に、指定された入場時間前と終了時間後の2回、大会受付に設置された「QRコード読み取り機」にこのQRコードを読み取らせます。

現在8月の柴田フォーラム(東京)、10月の年会(岡山)での単位付与を準備しています。

ぜひご参加ください。

### 3. 具体的な単位取得手順

ここでは詳細には触れませんが、日本薬剤師研修センターのウェブサイト内「薬剤師研修支援システム」から自分のページの「レポート提出」経由で単位取得が可能です。ただしデータ画像を取り込むためのスキャナー、送付する画像データを縮小するソフトなどが必要な場合があります。コンビニ等での申請料支払いが別途必要です。

単位取得が可能な研究は、申請時において4年以内の発表または雑誌発行日のものです。対象となる研究成果をお持ちの方はぜひ申請してみてください。

## 令和4年度日本薬史学会中部支部例会開催

中部支部長 河村典久

例会と講演会を行った。今回の奥田先生のご講演のあることから、京都から松本名誉会員の参加があった。参加者は10名であったが、2題の演題に熱心な討論が交わされて、有意義な講演会となった。

日時：令和5年2月25日（土曜日）午後2時～5時  
場所：名古屋市立大学医学部内 脳神経科学研究  
所5階

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

議題：

- ・八代監事の逝去に伴う中部支部役員等の更新について
- ・仙台での薬史学会2022年会の報告

講演会：以下に講演要旨を載せた。

講演要旨

### ①『未来薬学試論 (An Essay on the Future Pharmacy)』

名城大学薬学部 奥田 潤

奥田先生はすでに「薬学史事典 (2016)」と「薬学史入門 (2022)」において、薬学史研究の目的は、薬剤師である自己の人格の確立と未来薬学の展望にあると述べられてきた。

「未来薬剤師とは、思いやりの心を持ち、未来の病気と流行を把握し、薬物療法に精通し、その年代の社会と増加する災害の防災薬学に対応でき、増加する覚醒剤の不法輸入の防止対策を考える薬剤師をいう」。未来薬学を考える上で、これまでの実例と時代背景を解説され、今後の未来薬学の必要性和未来薬剤師に求められる基本的な薬物治療に精通し、患者・国民の健康に対し貢献することが望まれるとされている。

今後、SNSが発達し、国内、国際会議の開催が容易になると共に、患者が利用できれば自然科学、人文科学、社会科学のみならず、文化・芸術面でも利益を受け、治療の面で改善が図られる。また、メタバース、Chat-GPTも利用できる。さらにAIの利用にも言及された。

なお、詳細は薬史学雑誌 Vol.58 (1) p52-55 (2023)

に発表されているので参照されたい。

### ②『名古屋市立大学薬学部の変遷』

金城学院大学特任研究員 河村典久

明治17年に私立名古屋薬学校が名古屋市中区下園町に設立され、139年を迎える名古屋市立大学薬学部は、現在の瑞穂区田辺通に移るまでに名古屋市内を転々と移動して現在に至っている。特に、設立当初は名古屋の中心部を移動したことが深谷義雄氏の著書「愛知県薬業史」や、名古屋市資料館などの資料に記録されており、その変遷を紹介した。

- ① 明治17年(1884)6月11日に、東京大学製薬学科第5回卒業の製薬士・蔵田信忠が、自己所有の下園町10番地(現在の名古屋市立御園小学校のあたり)の名古屋製薬会社の工場の一隅を提供して薬学校「私立名古屋薬学校」を設立し、自ら校主兼校長となった。
- ② 明治19年(1886)12月20日に校舎を西魚町(現・中区丸の内3、元三共株式会社名古屋出張所のあったあたり)に移転した。
- ③ 明治23年(1890)6月に西新町(名古屋女子短大、女子大小路のあたり)に移転して名称を「私立愛知薬学校」と改めた。
- ④ 明治33年(1900)12月校舎を駿河町1丁目75番地(現在のNHK名古屋放送局の北、飯田街道の南付近)に移転。
- ⑤ 明治37年(1904)7月名古屋栄町(市立第一高等女学校(旧菊里高校)跡あたり)で、現・名古屋市立新栄小学校)に校舎を新築移転した。
- ⑥ 明治40年(1907)4月、南久屋町4丁目坂下東側(現在の愛知県医師会館辺り)に校舎を新築し10月に移転した。その後、薬剤師試験規則の改正(試験の受験資格を中学校(旧制)卒業後に3年生以上の薬学校を卒業したものに限る)に伴い、大正10年(1921)に廃校となった。
- ⑦ 昭和6年(1931)10月に、私立愛知高等薬学校設立の認可を受け、数年を経て鳴海町(現在の緑

区滝の水中央公園)に「私立愛知高等薬学校」を設立し、さらに「私立愛知薬学校」となり、昭和11年(1936)4月1日に「名古屋薬学専門学校」に昇格、そして昭和21年(1946)4月1日に名古屋市に移管され「名古屋市立名古屋薬学専門学校」となった。

- ⑧ 昭和24年(1949)4月に「名古屋薬科大学」となり、昭和25年(1950)4月1日に名古屋女子医科

大学と合併して、現在の「名古屋市立大学薬学部」となった。校舎は昭和26年(1951)6月15日、名古屋市瑞穂区萩山町1-11に移転した。

- ⑨ 昭和41年(1966)4月1日、薬学部は山崎川を隔てた瑞穂区田辺通に新築移転し、大学院薬学研究科博士課程が発足した。さらに平成25年(2013)7月に全面改築され現在に至っている。

## 海外の薬史学会の今(11) セルビア

国際委員会 辰野美紀

昨年、第45回 ISHP の大会がイタリアのミラノ市で開催(9月7日から10日まで)された。大会会長は、Angelo Beccarelli、イタリア薬史学会会長が務めた。(残念なことに、会長は ICHP 終了の三か月後にお亡くなりになった。ご冥福をお祈りしたい。)ミラノ市は、1668年に世界で最初の公的薬局方(Prospectus Pharmaceuticus)が発布された都市である。今回は、三年も続いたパンデミックのコロナ禍がヨーロッパでやっと落ち着き、久しぶりの対面での ICHP が開催された。ICHP の参加者は約200人、参加国は24か国。日本からは、日本薬史学会のジュリア・ヨングさんがただ一人参加され、口頭発表をされた。アジアからは他に香港(中国)から1名の参加があった。4日間の学会中、特別講演5報、口頭発表73報、ポスターセッション28題の発

表があった。

次回、2024年の第46回 ICHP大会は、セルビアの首都ベオグラード市で、9月4日から7日まで開催される予定である。セルビアは、バルカン半島の南東に位置し、以前は、旧ユーゴスラビア連邦の構成国の1つであったが、現在は独立しセルビア共和国となっている。首都ベオグラード(人口160万人)は西ローマ帝国、東ローマ帝国(ビザンツ帝国)、オスマン帝国時代の古い建物や要塞などを、また、首都の中心部では、19世紀の瀟洒な邸宅やオペラやバレエを上演する国立劇場などが立ち並んでいるのを見ることができる。ISHP の Newsletter は年1回発行。発行責任者は、アメリカ薬史学会会長 Prof. Dr. Greg Higby (greghighby@wise.edu)である。

## 西欧薬史学補講(2)

辰野美紀

『薬学史入門』

第1章 2. 西欧の薬学の歴史(2)中世

2) フリードリッヒⅡ世の医薬法(P40)

フリードリッヒⅡ世の医薬法 ①その背景

神聖ローマ皇帝フリードリッヒⅡ世の領土とローマ教皇支配地を比べるために、まず図1の地図を見てみよう。この地図は15世紀の地図であり、(13世紀とは少し違うが)ローマ教皇の支配地と北イタリ

アのロンバルディア同盟諸国が、神聖ローマ帝領(ドイツ)と神聖ローマ帝国のフリードリッヒⅡ世の支配地域(南イタリアとシチリア王国)に挟まれていることが見て取れる。ロンバルディア同盟とは、語源的にはゲルマン部族国家のひとつであるランゴバルト族の名前から来ている。北イタリアの諸国が軍事的にも経済的にも強力なミラノ公国を中心として同盟し、互いに協力しあって、アルプス山脈以北に位置する神聖ローマ帝国(ドイツ)などの侵略から自国を守ろうとするための軍事連盟である。



ヴェネツィア共和国やジェノヴァ共和国などの交易によって独自に国家財政を維持している国々を除いて、北イタリア諸国にとって神聖ローマ帝国は最も恐れる強敵であった。しかし、もっと神聖ローマ帝国を恐れ、常時対立している権力は、ローマ法王庁である。

## 西欧キリスト教社会 (中世)

中世のヨーロッパは、経済と文化の面で顕著な多様性を持っていた。これは一方では、南から北まで、あるいは、東から西までと、気候と地形の範囲が広がったからであり、また他方では、多くの民族が集っているために、それぞれ異なる生活習慣にしても、食習慣にしても、国の豊かさや軍事力にしても、これまで受けてきた歴史の影響が多種多様であったからである。それにもかかわらず、中世の西欧が表向き共通の文化、文明、共通の理念や態度を示しているのは、キリスト教を信じている人々の比率が高いからともいえよう。当初は、ローマ帝国 (多くの神を祀っていた国家)内では、唯一神を信じるキリスト教は危険思想と見られていたが、313年、コンスタンチヌス大帝 (在位306-337)はローマ帝国におけるキリスト教を公認した (ミラノ勅令)。ローマ教会 (法王庁)の法王 (教皇)は、キリストの使徒 (12人の弟子)の一人であるペテロの正統な子孫であると主張することによって、ローマ帝国領内の異教の民のキリスト教への改宗に努力した。特にローマ帝国内の北部イタリアに侵入してきたゲルマン部族のランゴバルト族の王をローマ帝国の文化・文明域に取り込むことに成功し、更に、比較的自主性の強いといわれていた北ガリアのゲルマン部族のフランク族のクロヴィス王 (在位481-511)のカソリックへの改宗に成功した。メロディング朝のクロヴィス王は、ゲルマン部族に土着の多神教を信じていたらしいが、ローマ系住民の希望に沿ってなのか一足飛びにカソリックの改宗を受け入れた。それに続いて、カロリング朝のカール (シャルルマーニュ)もカソリックに帰依した。ローマ帝国は、新たに改宗した異民族に対してその土俗的な慣習を尊重する寛容政策を取ることでローマ帝国の領土を次々と拡大した。ローマ帝国の寛容政策は日の沈むところがないとか、すべての道はローマに通ずなどと讃えられた

が、他方、帝国の治世の維持には多くのゲルマン部族の傭兵を各地に常駐させなければならず、多額の軍事費を必要とした。その結果、ローマ帝国の住民には重税を課す政策 (加えて教会の5分の1税の負担もあった)を採用していたことへの反発も増加し、それら不安定要素が西ローマ帝国の衰退を早めることになったとも理解して良いのかもしれない。更に、華美と繁栄を誇った西ローマ帝国は、ヴェネツィア共和国の大商人を介して、中国から大量の絹糸や絹布の輸入を続けて来たため、それらの支払いの金 (金貨)の流出が止まらず、帝国の財政も破綻に瀕していた。その上、ローマ帝国とその属州では、いわゆるゲルマン民族の大移動という大事件が起きていた。東方の内陸アジアから騎馬民族が流入しゲルマン人の居住地を圧迫した為に、暴徒化したゲルマン人が帝国内を徹底的に荒廃させたのである。それらもろもろの原因から、すでに東西に分裂していたローマ帝国のうちの西ローマ帝国は476年ついに滅亡した。オリエントに建国 (再建)された東方のローマ帝国 (キリスト教国 (カソリック・ギリシャ正教)) (東ローマ帝国) (ビザンツ帝国)では、偉大なギリシャ文明と学問 (哲学、思想、科学など)はシリア語やアラビア語に翻訳され、広く学ばれ吸収された。更に、エジプト・シリア・小アジア・アラブ・ペルシャなどの別の偉大な文化・文明が存在していたことを知ることになり、それらの多くはギリシャ語に翻訳された。(8世紀にはバグダッドに翻訳センターが設立された。また、すでに市中薬局も開設されていたらしい。)

## 法王庁の官僚について

ヨーロッパの聖職者は、中国で言えば官吏に相当するものである。イタリアに世界初のボローニャ大学が設立される前 (9世紀から13世紀頃)は、聖職者のみが読み書きの能力を独占していた。文書類、例えば、戸籍台帳、土地台帳、商取引の文書、会計簿、資源の調査表、裁判記録などは、司教や修道院長の監督の下で教会書記 (clerici)によって作成された。司教らは、教会に有利な文書を発行するような従順な聖職者を官僚として養成した。更に、司教らの最高位として法王 (教皇)を自分たちの中だけで選考出来る命令文書をも作成し、全教会に伝達し

た。これに対抗して神聖ローマ帝国の皇帝やその他の君主、領主たちも、皇帝権や王権の拡張に寄与する行政文書の作成や皇帝の勅令などを次々に発布した。この場合においてフリードリヒⅡ世に助言のできる有能な人物を側近として登用することが重要であったといえる。やがて、フリードリヒⅡ世は、帝国運営のためになる官僚を自分で教育する場を、父方(先々代のドイツ王)の祖父であるフリードリヒⅠ世(赤ひげ王)(バルバロッサ)が11世紀に征服したナポリの地に、大学(法律家や官僚を育成するための法律学科を含む)(学費は無料)を新設した。また、ヒポクラテスやガレノスなどの医学理論研究では全ヨーロッパ中に伝統と実績を誇るサレルノ大学に対抗して、より実践的な医療を重視するナポリ大学医学部も12世紀に開設した。

- 参考文献 1) 図説中世の世界(11世紀から15世紀まで) コリン・プラット著 朝日新聞社  
 2) 世界歴史地図 R.I.ムーア編 中村英勝訳 東京書籍



図1 15世紀のイタリアの地図<sup>2)</sup>

## 日本薬史学会賞など3賞の公募について

日本薬史学会会長 森本和滋

日本薬史学会は、日本薬史学会褒賞規程(平成17年10月1日施行、一部改訂平成20年4月19日:以下、本学会褒賞規定)に基づき、日本薬史学会賞・日本薬史学会奨励賞・日本薬史学会特別賞を公募いたします(2024年春の日本薬史学会総会にて表彰)。

日本薬史学会賞は薬史学に関する学術の進歩発展に顕著な功績をなした方、日本薬史学会奨励賞は、本学会の活動において、顕著な貢献の可能性を示している方あるいは活発な研究発表を行っている方、さらに、日本薬史学会特別賞は、高度な学術的貢献または本会の維持運営に特に功績のあった方に対して授与します。

推薦者(自薦・他薦)は本学会会員とし、下記推薦様式により、2023年10月30日(月)までに郵送にて申請してください。なお、各賞の選考には、本学会褒賞規定に従い、選考委員会を設置し理事会にて決定します。

### 推薦様式

- 1 推薦書類は、A4版用紙に記載するものとする。
- 2 推薦書類は、次のとおりとする。
  - (1) 推薦書(2ページ以内で次の内容を含むものとする)
    - A 被推薦者の氏名、所属、職名
    - B 推薦する理由(業績タイトルをつける)
  - (2) 被推薦者の履歴書(1ページ)
  - (3) 関連する業績リスト(形式不問)
- 3 推薦書類の送付先：
 

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16  
 (一財)学会誌刊行センター内  
 日本薬史学会事務局  
 日本薬史学会会長宛 (TEL)(03)3817-5821)

(文責：日本薬史学会副会長 船山信次)



## 北の大地からの遺言

会員 本間克明

「ちかくにいる。ちからになる。メディカルシステムネットワークが目指す未来」

単行本 161頁 (薬事日報社 2023年3月6日発売) ISBN 978-4840816038

かつて大ヒットした北海道・富良野が舞台のドラマのようで恐縮です。

何故私がここに登場することに至ったのか。それは、森本会長に私の新刊をお送りしたのが事の始まりです。すぐに読んでくださり、是非とも薬史ライターに寄稿せよとの業務命令が下ったのです。「遺言のような思いを込めて書きました」とお伝えしたことから、会長ご自身が付けてくださった表題です。

私は、1974年4月に北海道薬科大学の1期生として入学しました。順調に4年まで進級するも、1978年4月に潰瘍性大腸炎を発病しました。入院当初、全結腸からの大出血が止まらず、主治医から「会わせたい人をすぐ呼びなさい」と家族には伝えられたそうです。痛みが強かったので、モルヒネを打ちながら、プレドニン1日80mgを1か月続け、なんとか命は救われました。しかし、5mgまで減量するために11ヶ月の入院を要したのです。

その後復学し、2期生として卒業できましたが、「大学院でリハビリしたらいい」と担当教授から勧められ修士課程に身を置きました。院生とはいえ、IR棟の管理、動物舎の管理、本業である骨髄細胞の培養実験等で、リハビリとはほど遠い研究生活が

待っていました。なんとか2年間辛抱しましたが、体力のなさを痛感し、研究者ではなく、ビジネスの道に進むことにしました。決断した時、当時の湊学長から「この2年間を無駄にするのか!」と強く叱責を受けました。今でも申し訳なく思っています。

ビジネスの世界を目指した私が、田尻稲雄と秋野治郎と出会い、この二人の部下となったのが1981年のことです。それから、42年、6歳上のお二人と苦楽を共にしてきました。その詳細は、弊著『ちかくにいる。ちからになる。メディカルシステムネットワークが目指す未来』をご覧ください。

来年、私は古希を迎えます。老害となる前に本年6月に、会社を去ることにしました。

だからこそ、創業の想いを書籍に表し、遺言のようにして後輩たちに託したいと思ったのです。どんなに会社が大きくなったとしても、決して忘れて欲しくない理想と理念があるからです。



### 〔Book紹介〕

Kloos, Stephan (編)、Blaikie, Calum (編)、Routledge社

## Asian Medical Industries : Contemporary Perspectives on Traditional Pharmaceuticals

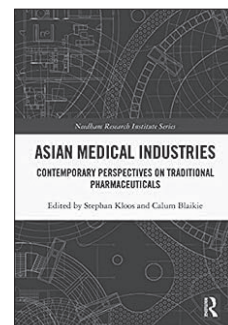
15.6x2.57x23.39 cm 352頁 22,912円 (2022年3月発売) ISBN 978-1032110226

本書はアジア全般10章からなり、東アジアの中医薬(中国)、漢方薬(日本)、南アジアのアユールベーダ(インド)、チベット医学(北インド、ネパール、モンゴル)の各々近代化の影響を受けた歴史と現状についての集大成となる金字塔である。紙幅の制約から日本について触れるが、是非、各国の受容の違いなどを味わっていただきたい。新井一郎

氏、本会のジュリア・ヨング理事、津谷喜一郎名誉会員によるGXP規制と漢方薬の章では、主に明治から昭和の時代の漢方薬の盛衰について規制の変遷とともに論じている。日本では明治政府の西洋薬重視に起因し、漢方薬も原則、西洋薬と同じ規制を受けている。戦後同時期に起こった国民皆保険、漢方エキス製剤の開発、医療用への逆スイッチは、薬害

事件等での西洋薬不信と安全神話と相まって使用量が急増したが、小柴胡湯の間質性肺炎により下火となった。漢方薬再評価ではプラセボ作成の困難さなどから二重盲検試験実施が難しく、結果的に小青竜湯の腎関連効能の整理に留まった。一方、GMP、GCPは西洋薬と同様に適用され、原料生薬の多くを中国からの輸入に頼っていることもあり、新規開発や海外展開は進んでいない。豊富な参考文献を基に論じられ、外国人の日本の特別な状況の理解だけでなく、国内研究者の参考となるものである。これに続く薬都富山の章は、編者でもある Calum Blaikie 氏と本会会員の二谷智子氏（「近代日本の消

費と生活世界」の著者でもある）により、官民挙げた江戸期からの配置薬の発展と変遷、制度への対応、近代医薬品産業の勃興と共存について紹介され、前章の前後史とも、また、地域の歴史としても読みごたえのあるものとなっている。なお、電子書籍版に加え、ペーパーバック版も出版予定とのことである。



(齋藤充生)

## 〔Book紹介〕

加藤久幸、飯島裕也、高橋信洋 著

### 「薬剤師 The Hundred-Year Marathon ～理念と覚悟～」

四六判 264頁 1,980円 (薬事日報 2022年10月発売)

ISBN 978-4840816007

医療機関の薬価差益解消を目的とした処方箋料の大幅引き上げという経済的政策誘導による昭和49年の医薬分業元年からの40年の振り返りと、今後60年間の将来展望から100年間とされている。歴史的部分は主に第1章で、薬史学事典も引用はされているが、出典が特定文献に偏り医師自らによる調剤の許容を明治22年の薬律ではなく、昭和26年の医薬分業法に求めるなど、薬史学の観点からはやや粗削りな面もあるが、薬局薬剤師の立場から見た生きた歴史証言としては、今後の貴重な記録になるとともに、さらなる研究の手引きとなろう。

2章、3章は若手の2世、3世薬剤師による現在の

取り組みと近未来の展望で、先進的な調剤ロボットシステム、調剤助手の活用、アマゾン薬局の脅威、ポストコロナ対応、自身の経験による病院薬剤師と薬局薬剤師の違いと取り入れるべき事項など、薬局と薬剤師の今を活写する資料として後世に伝えるべきものと思われ、将来世代の振り返りの参考としてここに記録するものである。



(齋藤充生)

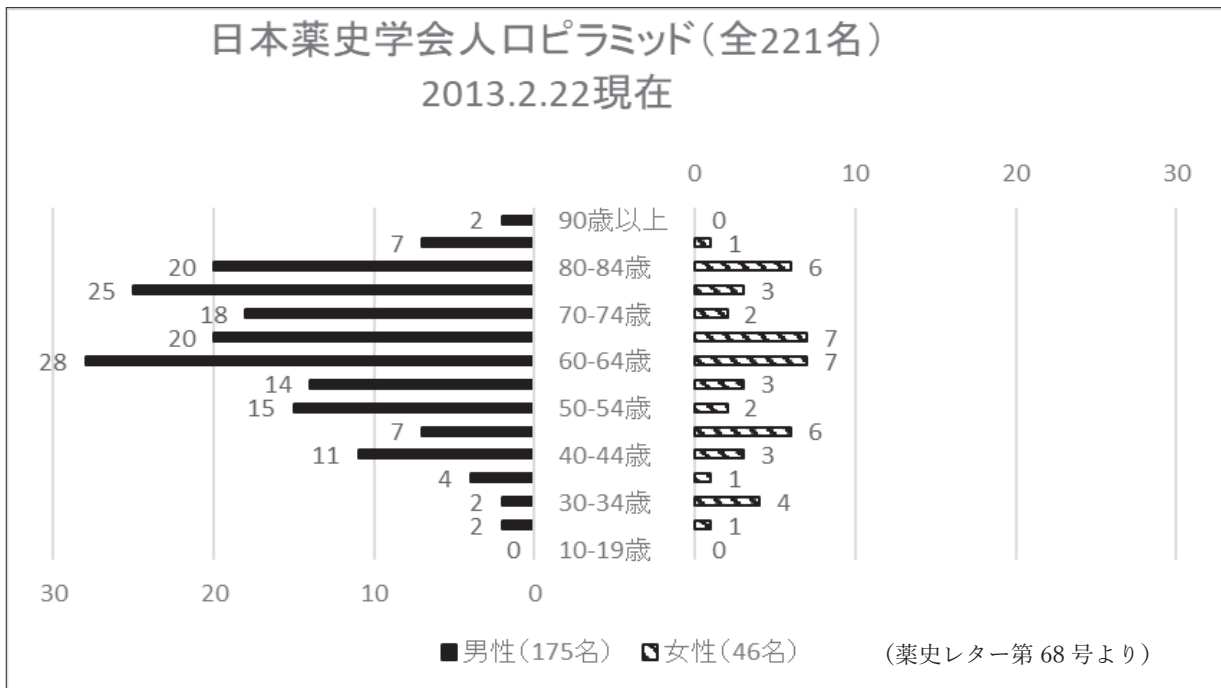
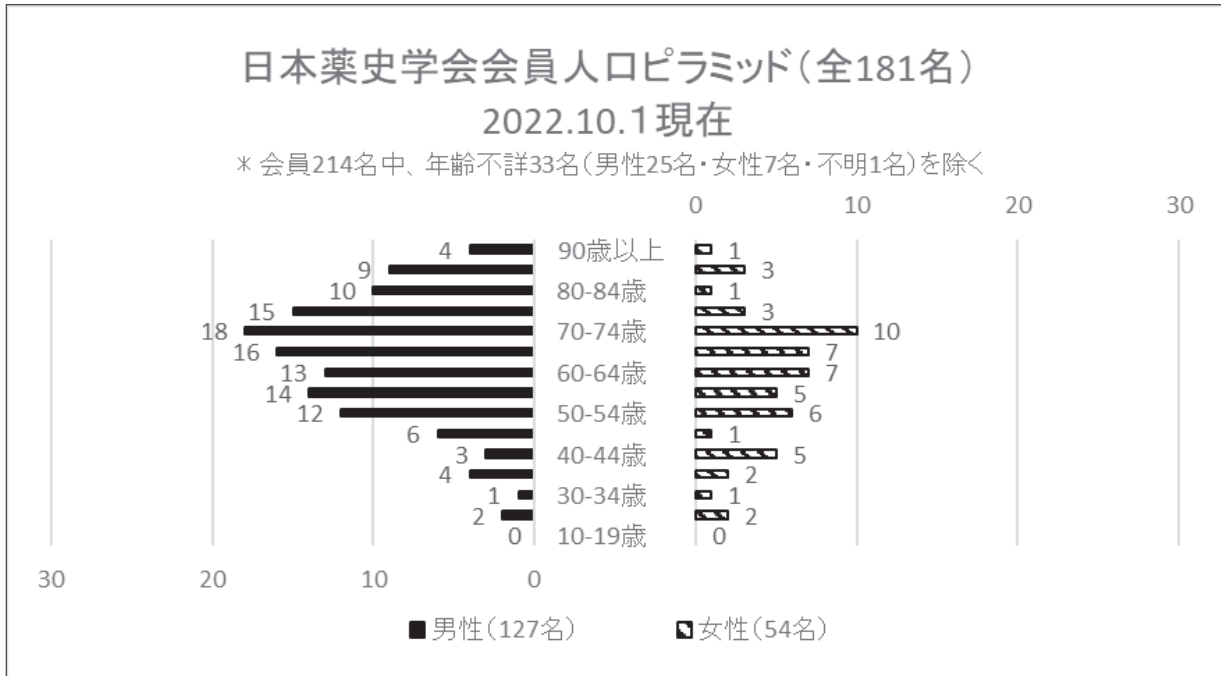
## 東京大学薬学図書館展示見学記

学会一斉メールで案内があったとおり6/19～8/18に東大薬学図書館で「近代日本における薬学の黎明－創始者たちの足跡－」の展示が行われた。収蔵資料からの選定、40ページにわたる解説、15ページの図録は本会飯野洋一評議員によるもので、見学時に説明をいただいた。東大薬学部の前身の医学部薬学科の黎明期が対象であるが、展示資料の殆どは薬史学文庫に収蔵されているものであった。これに先立ち、資料保存のための修復なども行われたとのこと、学会から移管された書籍が大切に取り扱い、永く保存されることは感謝に堪えない。解説、図録は東大薬学図書館 HP ([http://www.lib.f.u-tokyo.ac.jp/tenji\\_kindaiyakugaku\\_2023/](http://www.lib.f.u-tokyo.ac.jp/tenji_kindaiyakugaku_2023/))で公開されており、下読みしてから展示に向かったが、現物を見ると、装丁、付記されている原語の種類、過去の所有者の書き込みなど、新たな気づきもある。今後、年明けにはこの次の世代に関する歴史資料の展示解説が予定されているとのこと、非常に楽しみであるとともに、薬史学文庫の利活用に喜びを感じる。

(齋藤充生)

[資料]

## 「日本薬史学会会員人口ピラミッドの推移」



(常任理事 齋藤充生)



## 薬史往来 日本大学薬用植物園の系譜 (2)

日本大学薬学部生薬学研究室 松崎 桂一

新校舎の建設に伴い、昭和40年(1965)に薬用植物園は現在の地に移設され、本学ではこの年が再開園年となっているが、生薬学研究室の資料によると2年後に植物の移転が完了しており、本格運用は昭和42年(1967)の様である。中央に位置する見本園は、医薬原料植物区、和漢薬植物区、民間薬植物区、染料および香料植物区、水生植物区に区分され、ひと区画3×3で、9種の植物を観察することができる。白塗りで黒を使用した手書きで植物名、科名、用途などが記載された各植物の立て札は整然と並べられていた。これらの区分、標記の仕方は、粕壁、津村の両植物園でも採用されていた表記方法であるのは当時の写真から確認することができる。先生が退職された後の昭和52年(1977)に

旧温室が完成し、熱帯植物の栽培も可能となった。旧温室は老朽化と様々な思惑が絡み取り壊され、平成30年(2018)に新温室が完成した。先生の研究されていたショウガ科 *Alpinia* 属植物も多数残されており、生薬学研究室でもこれらを使用した研究が現在でも行われている。

地球環境・社会情勢の変貌により生薬製剤の基盤となる薬用植物の入手が困難な状況となることが予想され、農林水産省、厚生労働省も薬用植物の栽培に力を入れ始めている。本学薬用植物園も設立時の原点に立ち返り、新たな薬用植物の栽培法の研究に着手し、薬用植物園の系譜の一路として、薬用植物園の設立に携わった多くの方の意を汲みこれからも地道な活動を続けていきたいと考えている。

### 近代日本人の肖像

国立図書館の電子展示として1000人あまりの「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)が公表されている。人名、職名(学者、医師・薬剤師など)、出身地、生年で整理され、肖像画像は著作権保護期間が満了したもので、出典を記載することで利用可能となっており、執筆に役立ちそうである。論文や書籍に出てきた人物の肖像を見ることでイメージが湧くこともあるだろう。(齋藤充生)

### 日本薬史学会編集委員会

編集委員長：齋藤 充生

編集委員：赤木 佳寿子 武立 啓子 牧 純

### 薬史レター 第91号 2023年9月

編集人：齋藤 充生 発行人：森本 和滋

日本薬史学会 The Japanese Society for the History of Pharmacy (JSHP)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (一財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局

tel: 03-3817-5821 fax: 03-3817-5830 e-mail: yaku-shi@capj.or.jp

<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/>

所属先、住所、アドレスなどの変更が生じた場合には、学会事務局へ必ずご連絡ください